小学校 × 生活

生活どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。

変わる所 7項目　解説PDF 1件



10秒でいうと

目標を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に。動物は借りて飼うのも学校飼育と同等

生活科は、AIでは代わりができない「実感を伴う知」を育てる教科として、意味を整理し直す方向です。目標の言葉は「具体的な活動や体験」から「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に改める案です。体で感じる体験と、言葉や絵で表す活動を行き来させます。他教科とのつながりを1年間の計画で示すことや、動物飼育の柔軟な扱いも示されています。

どこが変わる？現行⇔次期（小学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

目標の柱書の学び方の言葉

現行

「具体的な活動や体験」を通して学ぶ。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**身体性を伴う体験**と**多様な表現活動**」を通して学ぶ。体験（内化）と表現（外化）の行き来をはっきりさせる。

P200　P203

内容の示し方

現行

資質・能力の3つの柱に分けずに内容を示している（「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」と「の基礎」を付ける）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

この方針を続け、3つの柱を一体として一文で示す。「統合的な理解・総合的な発揮」も3つの階層ごとに一文で示す。

P205 ※大きな変更ではなく現行方針の継続

架け橋期のカリキュラムとスタートカリキュラム

現行

スタートカリキュラムは各学校で作るよう求めているが、架け橋期のカリキュラムは全ての学校には求めておらず、関係が分かりにくい。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

架け橋期のカリキュラムを「5歳児のカリキュラム」と「1年生のカリキュラム（スタートカリキュラム）」の総称と位置付ける。
スタートカリキュラムの期間は柔軟に設定できると明確化。

P206

合科的・関連的な指導の時期

現行

入学当初の時期に限られ、年間を通じた取組になっていない場合が多い（現状の課題として指摘）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

各教科との関連をスタートカリキュラムや年間指導計画に位置付け、1年間を見通して計画的に行う（接続の「**見える化**」）。

P201 P206

動物飼育

現行

学校で動物を飼育する。飼う動物は魚や昆虫など、哺乳類や鳥類に限らない。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

学校での飼育を基本としつつ、他の持ち主からの借用（**ホスティング**）や、近くの施設・団体の動物と継続的に触れ合うことも学校での飼育と**同等の扱い**と明確化。

P208

学習評価

現行

生活科の節には現行の評価方法の記述がないため current は空欄

→

次期（審議まとめの案・告示前）

他教科と同様に**観点別評価**を行う案。「学びに向かう力」は**個人内評価**で総合所見欄などに反映し、「見取る姿」の継続的な発揮が見られたら「思・判・表」に「◯」を付ける。

P210

見方・考え方

現行

本文・資料編に現行の生活科の見方・考え方の文言が示されていないため current は空欄（資料編m3 P34 生①は改訂案のみ）

→

次期（審議まとめの案・告示前）

①対象＝「身近な人々、社会及び自然」、②視点＝「**自分との関わりで捉える**」、③考え方＝「よりよい生活に向けて**思いや願いを実現しようとすること**」の3つの要素で整理する。

P202 P204

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの小学校の生活の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **生活編**
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編

学習指導要領の本文

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

小学校の生活の指導案（試案）



小 生活 2年

うごけ！わくわくおもちゃ

本時のねらい 自分のおもちゃをもっと遠くまで動かすために、ゴムの引き方や帆の大きさなどを変えて試したり、友達のおもちゃと比べたりしながら工夫し…

指導案を見る →

もっとくわしく

生活の変更点（くわしく） 新旧比較（全校種） 小学校の先生へ
資料室（小学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。